

9月1日(金)

2学期始業式

長い夏休みが終わり、2学期が始まりました。2学期も、子供たちの健やかな成長のために教職員一同、努めてまいります。御支援・御協力をお願いします。

以下、始業式での校長の話です。

おはようございます。長い夏休みが終わりました。

まず、みなさんにお礼を言います。自分の命を大切にして過ごしてくれてありがとうございます。みなさんの顔を見ることができて、とてもうれしいです。

さて、私は1学期の終業式で夏休みについて二つのお願いをしました。

一つ目が、パワーアップした自分をつくる夏休みにしてくださいということです。そんな夏休みを過ごせましたか？

そして二つ目。9月1日には「夏休みに〇〇を頑張ったよ。」と担任の先生にお話をしてくださいねと言いました。担任の先生に話すことができる「頑張ったこと」がきっとありますよね？是非、担任の先生にお話をしてくださいね。

1学期の終業式では、背の高さが違う3人の多小っこまんの絵を使って「違いを認める」とか「友達を大切にする」というお話もしました。覚えていますか？2学期は1年で1番長い学期です。行事もたくさんあります。友達を大切にしながら、全校生がきらきらキッズとして輝く2学期にしてほしいと思います。そして「日本一すばらしい！」と自慢できる学級になることを、「みんな」目指してください。

まだまだ暑い日が続きます。熱中症等、体調には十分気を付けながら、2学期を過ごしましょう。

校長独り言

史上最年少のプロ車いすテニスプレーヤー小田凱人（おだ ときと）さん17歳。今年6月に開催された全仏オープン、7月に開催されたウィンブルドンで優勝したというのは、ニュースで知っている人も多いと思います。

小田さんはプロのサッカー選手になることが夢でした。しかし9歳の時、骨のがんである「骨肉腫」と診断されました。手術は成功しましたが、サッカーはできなくなり、夢を断念しなくてはなりません。そんな小田さんがテレビの画面越しに、車いすテニスの第一人者である国枝慎吾さんのプレーを見て、「車いすテニスの世界一になる」という夢を新たに抱き、リハビリに励んだそうです。

私は小田さんを「すごい」と思います。それは「有言実行」、車いすテニスで世界一になったということもありますが、次のような言葉をインタビューで聞いたからです。

「骨肉腫の診断を受け、手術をするなど、約1年間治療をしました。その間の検査で『死ぬのではないか』と思う数値が出たことがあります。誰も経験したことないような経験でしょう。すごくラッキーだったな。」「自分の病気自体が珍しくて、何万人に一人の病気です。選ばれたつもりで胸を張っています。」

小田さんはこれまでに2度、肺にがんが転移しており、4か月に1度の検査が欠かせません。それでも小田さんは言います。「うまくいかないのが僕の中で普通です。そこでくじけるってことは全くないです。」「車いすテニスをやりたいと思って、リハビリや治療を頑張りました。神様が自分に『乗り越えられるかな』と挑戦している気がして。だったら頑張らないといけません。選ばれたと信じて頑張りたいです。」